学校番号	3030

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位数	２単位	年次	３年次 （文科・前期）
使用教科書	「新詳世界史探究」（帝国書院）						
副教材等	「グローバルワイド　最新世界史図表」（第一学習社編集部）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史を勉強するにあたって大切なことは、常に歴史的事象や現代に起こっている出来事について「なぜ」という視点をもって思考していくことです。そして、歴史から学んだことを生かして、世界の国の諸事情をふまえ、現在の日本のあり方を考えていきましょう。授業に積極的に参加し、個々の事象だけでなく、俯瞰的な視点をもって主体的・多角的に思考する機会を生かしてほしいと思います。また、考査前の知識の整理をきちんと行って、歴史という時間軸を大きな枠組で理解してほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
多くの資料に触れ、歴史的な感性を養うために必要となる知識及び技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
個々の出来事を暗記するだけでなく、同じ条件下（政治体制や国際情勢、地理的要因など）でどのような進展が見られるかを考察し、類推できる力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史を日本の歴史と結び付けて学ぶことはもちろんのこと、すべての歴史的事象が今を生きる自分自身につながっていることを意識しながら学ぶ主体的な姿勢を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性・複合性や現代の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する市民としての責務を果たそうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	諸地域の交流・再編	・アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 ・主権国家体制の成立と交易の拡大	a:世界の歴史的事象を地理的条件や日本史との関連から理解し、基本的な因果関係を踏まえて正確に説明でき、資料から必要な情報を読み取る技能を身につけている。 b:広域交流の背景や影響を多面的に考察し、課題を自ら設定して根拠に基づき公正に判断し、その考察過程と結論を文章や図表など適切な方法で論理的に表現できている。 c:世界史への関心を高め、課題の探究に意欲的に取り組み、学習の成果を国際社会の理解や自らの生き方に結びつけようとし、学びを次に生かそうとする姿勢が見られる。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート
	諸地域の結合・変容	・環太平洋革命～工業文明と国民国家の誕生 ・イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 ・世界の一体化の進展とアジアの変容 ・世界の一体化の完成とその影響 ・世界大戦の時代 ・戦後の国際秩序と冷戦	a:産業革命や帝国主義、植民地支配の拡大、世界市場の形成、列強のアジア・アフリカ進出などの歴史的事象を関連づけて理解し、資料を基に地域の結合と社会変容の因果関係を説明できる。 b：産業革命後の国際競争や帝国主義政策、植民地支配がもたらした経済・社会・文化の変容を多面的に考察し、史料を根拠に課題を設定して、公正で論理的な判断と表現ができる。 c：産業革命や帝国主義、列強の進出、第一次世界大戦などへの関心を深め、調査や考察に意欲的に取り組み、学びを現代の国際社会理解や自らの生き方に結びつけようとする姿勢が見られる。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・ワークシート	・提出ノート ・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度